

令和7年度 第3回 丹波篠山市環境審議会 会議録

記録：農村環境課

■開催日時

令和7年7月30日（水） 19時00分～20時30分

■開催場所

丹波篠山市民センター 催事場1・2

■出席者

委員 14名

事務局 5名

■欠席者

委員 6名（うち3名委任有）

■傍聴者

0名

■会議の要旨

以下のとおり

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 審議事項

(1) 第3次環境基本計画案について

事務局

（計画案に基づき説明）

《P.2～P.11》

A委員

「目指すまちの姿」について、これ以降の記載箇所は全て番号

が振られており、この箇所も番号を振った方が見やすいと思う。

事務局

ご指摘のとおり対応させていただく。

《P.42》

B 委員

図 7 では、市から協働プロジェクトへの支援策として、自走化継続支援金が記載されているが、金銭面以外の支援はあるか。アドバイスやノウハウの支援があった方が市民は動きやすいと思う。図内に文言を記載しておいてほしい。

事務局

具体的な内容は分かっていないが、人的な支援もしていきたいと考えている。図にも記載する。

《P.56～57》

C 委員

協働プロジェクトについて、もう少し具体的なイメージが分かれば理解しやすいと思う。事務局としては、どういうイメージを持っているか。

事務局

第 2 次計画期間では、環境からまちを良くする活動を支援する補助金を創設し、芽吹きとなる取り組みを支援してきたほか、市民同士が交流できる場づくりに取り組んできた。その結果、市が想定していた以上の取り組みが出てきた一方で、その取り組みを発展、自走化させていくためのマネジメントができる人材が必要だと考えている。

第 3 次計画期間における具体的なアイデアとしては、自走化支援に係る金銭的支援以外の具体的な取り組みは決まっていない。市でアドバイスやノウハウの交換の場として報告会を企画したが、意外と人が集まらなかった。来年度すぐに着手するというよりも、皆さんの意見をいただきながら 10 年間の期間で少しずつ作っていききたいと考えている。

D 委員

協働の取り組み例として「丹波畦師」の事例を紹介すると、“農業者でない人”をいかに草刈りに関わってもらえるようになるかが特徴であった。市でも草刈り隊設立をやっているが、農家の数そのものが減ってきていることから、新しい関わりが持てないかという取り組みとして始めた。結果としては、播磨地域のように上手く広がらなかった。これは、まとまった事務局機能を持つことができなかったこと、講習会といった実働以外

へのフォローが難しかったことが原因かもしれない。播磨地域の場合、事務局機能のソフト面を中心にやっているのは農業者ではない。課題の解像度を伝える実働ではない人材がいかに関務局を担えるか、資金を調達できるかが、自立に向けては課題であった。

一方で草刈りという面では大きくはならなかったが、波及効果として地域の耕作放棄地で農業に取り組む方が増えている。面積的に小さく普通は手を出さないような場所で、生計を立てる農業ではなく、多少の獣がいを考慮したうえで農業に取り組む人材が定着しつつある。狙い通りにはならなかったがトライアンドエラーができた。資金とどのような人材が必要であったかは、やってみて初めて分かったことである。

副会長

新たに人を呼び込んでくるためには発信が必要だと思う。どういったターゲット層に情報を伝え、そこからきっかけを作り、それを発展的な取り組みにつなげていくためには、本業にする人材がないと、上手くいかないと思う。協働プロジェクトの場合でも、仕事として位置付けられたマネジメント専門の人材が必要だと思う。

事務局

難しい内容だと思う。事務局機能を切り分けて一部の取り組みをしてみてもいいかもしれない。例えば、自治会でも高齢化が進んでいるが、事務局機能のうち回覧板の機能だけを外注するといった切り分け方法もある。

副会長

切り分け後も全体をコーディネートする別の業務が発生すると思う。事務局を担える能力の高い人材が必要だと思う。

会長

2つのリーディングプロジェクトのうち、協働プロジェクトは計画に記載された内容だけでは何をすればいいのかわからない。何かのトピックに対して作戦会議をするということならイメージはつかめるが、結局は丹波畦師の事例のような結果を繰り返すだけかもしれない。かといって場を作ったとしても、解決につながるイメージも見えてこない。次の段階に進むために、リーディングプロジェクトを具体的にどう進めていくのかの足元部分が少し分かりにくい。

事務局

市としても明確なビジョンが描けていない面もある。一方で、

これまでの協働補助金で一定の取り組みの掘り起こしはできたと思う。この創発の取り組みは継続しつつ、自走化・発展するための段階をつくっていきたいと考えている。

副会長

自走化とは具体的に何を示すのか。発展を目指して自走させるとなると、その先には資金を獲得しないと広がっていかないとと思う。

E 委員

協働補助金の利用団体は、これまでにどのようなものがあったか。

事務局

今まで 12 団体の利用がある。下流域の住民との協働による里山・竹林整備をした例のほか、アクアポニックスと呼ばれる水耕栽培と魚の養殖を合わせた循環システムで野菜を育て、魚の餌に野生動物の肉の使用を検討するといった取り組みがある。

E 委員

12 団体は現在も活動を続けているのか。

事務局

全てが活動を続けられているわけではない。

E 委員

継続できなかった理由を調べた方がいいと思う。

副会長

事業が継続できない理由や広がっていかない大きな理由としては、そもそも資金が足りないというよりも、事業として大きくしていくという発想がなかったかもしれない。そもそも事業として大きくしてかないと広がりが無いため、そういうものとして募集をしていかないと短期的なものばかりになってしまうと思う。

事業の掘り下げを目指すのであれば、参加者間がラフに発表できる場があれば実現できると思う。協働を促進していくためのメンバーが定期的集まる場を設けて、協働プロジェクトを専門に考える場を設定するまでしないと、新しいことや広がりは生まれないと思う。ユートピアのイベントも年 1 回の開催時は盛り上がるが、期間が開くとまたしぼんでしまう。せっかく生まれたアイデアも次に掘り下げて具体性を持たせて検討を重ねる会を継続的にやってしまう仕組みまでをつくらないとプロジェクトは動いていかないと思う。

事務局	<p>新しいチームを作って具体的に進めていく方法としては、環境審議会規則で小委員会を設置する方法も一つの方法である。</p>
F 委員	<p>毎回でなくてもいいと思うが、リーディングプロジェクトを考える会を行う際には、次の世代の子どもも参加し、発表する場や交流する場を設けてほしい。子どもの視点から見た場合に協働というワードは、今の教育が目指す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることが学校教育の場で行われている。</p>
副会長	<p>ユニトピアさきやまでは、昨年度敷地内の棚田再生が自然共生サイトに認定された。このことをきっかけにして、市内のネイチャーポジティブを推進する拠点となるように、関係する個人や事業者を集めた協働の場を設けた。このようなお互いの考えや思い、どういった活動をしているかを聞いて議論する場が協働の場づくりのきっかけとして必要なことだと思う。参加者も少なかった理由としては、どんなことをやっているのかが分かりにくい点と参加するインセンティブが働かないためだと思う。例えば、選ばれた協働プロジェクトには、例えば数百万円や数千万円といった資金がつくなど、大きなインセンティブを設定しないと良い協働プロジェクトは生まれないと思う。必ずしも補助金でなくとも金銭的な融資でもいいと思う。</p>
事務局	<p>数千万円の予算を市で確保するのは難しいと思う。最高得点を引き上げる方法だけでなく、環境からまちを良くする取り組み全体の平均点を引き上げることも目指していきたいと思う。</p>
副会長	<p>プロジェクト型のふるさと納税の制度を活用してみてもどうか。</p>
会長	<p>返礼品を選んだうえで分野を選ぶ寄付をすると、分野全体の一般会計に入ってしまうことがあると聞いたことがある。</p>
副会長	<p>NPO や地域団体を指定して寄付の制度設計ができるはずである。</p>
会長	<p>まずはこうした意見を出す場を設定した方がいいと思う。会議テーマに応じて、関係部局の職員も出席するようになればイ</p>

メージがしやすくなると思う。

C 委員

脱炭素分野の取り組みが、日に日に加速してきていると感じる。市民による取り組みも重要であるが、丹波篠山市の場合は事業者からの CO₂ 排出量が多かったように思う。知られていないが、市内事業者のなかには先進的な取り組みを既に実践している場合がある。そういったところの連携も協働プロジェクトとして何か検討してほしい。

事務局

市としても個人だけではなく事業者の活動もサポートするという点はとくに重視している。省エネや脱炭素の取り組みに関する登録制度を創設し、表彰による優良事例の蓄積や事業者同士でのノウハウの交換を行っている。その一方で、実践事業者が固定され、横への広がりが上手くいっていない。この実態を踏まえて協働プロジェクトのなかで工夫していきたいと考えている。

会長

成果指標の部分など、まだ決まっていない箇所もある。次回の会議でも意見できる機会はあるが、細かなものは事務局まで連絡してほしい。

4. その他

事務局

- 丹波の森大学公開講座について（D 委員）
8月23日（土）に丹波の森やネイチャーポジティブに関する公開講座を開催します。
- カーボンオフセット LP ガスについて（C 委員）
ユニトピアささやまに4月から供給している。カーボンオフセットの化石燃料の販売等も徐々に始まりつつある。
- クビアカツヤカミキリの発見について（事務局）
7月12日（土）に住吉台で成虫オス1頭を初確認。発見箇所から2km圏内で県・市・専門家により緊急調査を実施。新たな発見はなし。周辺自治会への周知と啓発を強化している。

- お堀の水草採りボランティアについて（事務局）
お堀の環境維持に向け、ボランティア登録にご協力をお願いしたい。
- 環境セミナーについて（事務局）
8月31日（日）に環境セミナーを開催します。正木明氏による気候変動や生物多様性についての講演を行います。

5. 閉会